

## ピア・チュータリング活動における振り返り支援システムの提案

## Proposal on a Reflection Support System for Peer Tutoring

水島 菜々子<sup>\*1</sup>, 高木 正則<sup>\*1</sup>, 市川 尚<sup>\*1</sup>  
 Nanako Mizushima<sup>\*1</sup>, Masanori Takagi<sup>\*1</sup>, Hisashi Ichikawa<sup>\*1</sup>,

<sup>\*1</sup> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

<sup>\*1</sup> Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

Email: g031p137@s.iwate-pu.ac.jp

**あらまし:** 本学部で運営する学習支援コーナーでは、学生チューターが学習上の問題解決を支援するだけでなく、学生の学びの自立を促すことを目的としたピア・チュータリングを行っている。しかし、現状のピア・チュータリングはチューター自身による主体的な改善ができていない。そこで、本研究ではピア・チュータリング活動の主体的な改善を促すことを目的とし、ピア・チュータリング活動における振り返り支援システムを提案する。本システムでは、ピア・チュータリング終了後に作成する報告書による振り返りの支援を行い、チューター自身がチュータリングについて振り返り・改善を促すことを支援する。

**キーワード:** ピア・チュータリング, 学習支援, 振り返り

## 1. はじめに

日本の教育機関では、ピア・サポートという専門家や教師ではなく同じような立場の仲間による個人指導や日常的な学習の助言、手助け等の学習支援が行われている場合がある。学習支援を行う同じ立場の学習者はチューター、学習で理解できない点や、自力での解決が困難な問題の対応を依頼する学習者はチューティと呼ばれている。岩手県立大学ソフトウェア情報学部では、自立した学習の支援を行う学習支援コーナー（以下、支援コーナー）に所属するチューター（学生）それぞれの得意分野を活かしてピア・チュータリング（以下、チュータリング）活動を実施している。チューターはチュータリング終了後に報告書の提出が義務付けられている。しかし、報告書はチュータリングを行った証拠として保管されており、チューターが自身の過去のチュータリングについて振り返り、改善を行うために活用されていないのが現状である。そこで、本研究では、チュータリング活動において、チューター自身によるチュータリングの主体的な改善の促進を目的とし、チュータリング終了後に作成する報告書を活用した振り返り支援システムを提案する。これにより、チュータリング活動の質の向上が期待される。

## 2. チュータリングの概要

本学部の支援コーナーで実施しているチュータリングの流れを表1に示す。本学部のチュータリングは1回90分で行われている。チューティからの依頼内容をもとにチューターがマッチングされ、チュータリングが実施されている。

チューターとして活動するためには、学習支援コーナーにチューターとして登録し、チューター研修を受ける。チューター研修を受けたチューターは先輩チューター立ち合いの下でのチュータリングを2

表1 チュータリングの流れ

導入	チューティのニーズと現状を確認し、チュータリング内の目標を決定する
実装	目標に向けて、協働学習の実施
まとめ	実施内容の確認と理解度の評価の実施

回経験することで一人でのチュータリングが可能になる。

## 3. 報告書の分析

提案システムで、報告書を活用するにあたり、2019年4月11日から10月30日までのチュータリング活動の報告書150件を対象として、報告書の中の「相談の詳細な内容」と「チュータリング内容」の2つの項目に記述された内容を分析し、チューターの振り返りにつながる記述があるかを分析した。

分析を行った結果、報告書の書き方が統一されていないため、チューターによって記述の詳細さが異なっていたことが明らかになった。また、報告の大半は単元名や授業内で出された課題の番号に対する解決方法の記述であり、チューティの理解状況や理解状況をもとにどのような対応をするべきかという判断理由に関する記述がほとんどなく振り返りに活用できるものではなかった。

この結果からシステムにおける報告の項目と各項目で記述すべき内容を明確にするべきでると考えられる。

## 4. 提案手法

### 4.1 システムの概要

支援コーナーでのチュータリング終了時にチューターが作成する報告書を活用した振り返りとチュー

表2 報告の項目と内容

入力項目	内容
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元</li> <li>・ 授業の進度</li> <li>・ チューティのニーズの確認</li> </ul>
チュータリング内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チューティの理解度把握のために実施したこと</li> <li>・ チューティへどのような教え方をしたか</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記 2 つの項目の記述内容と実施結果について振り返り</li> </ul>

表3 チューターのランク

1段階 チューター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続年数が1年以下</li> <li>・ 一人でのチュータリングを1回以上経験したことがある</li> </ul>
2段階 チューター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入・実装・まとめの流れに沿ったチュータリングを行うことができる</li> <li>・ 自分が行った対応についての説明ができ、結果をもとに自身のチュータリングの改善を行える</li> </ul>
3段階 チューター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2段階の要件を満たしている</li> <li>・ 導入・実装・まとめの実施内容、実施理由について理解し、説明することができる</li> </ul>

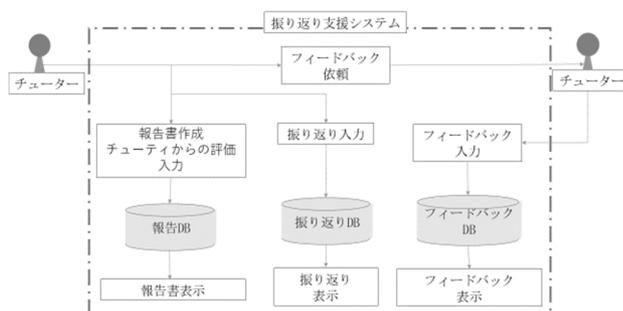


図1 システム概要図

タリングの改善を支援するシステムを提案する。現在、報告書に記載する項目は実施日時やチューティの情報に加え、相談の詳細な内容、チュータリング内容、チューター間で共有したいこととなっている。本システムでは報告内容を記録するだけでなく、報告内容に対する他チューターからのフィードバックやチュータリングを受けたチューティからの評価を行えるようにする。これにより、チューターが認識できていなかった様々な気づきを得られるようになり、チュータリングの改善に結び付けることが期待できる。

#### 4.2 システムの設計

図1にシステム概要図を示す。チューターはチュータリング終了後、システムにチューティからの評価と報告内容を入力する。チューティからの評価は評価用紙にチューティが記入したものをチューターが報告書作成時に入力する。システム上で報告書が提出されると、フィードバックを担当する3段階チューターにフィードバック依頼が届く。依頼を受けた3段階チューターはフィードバック入力画面からフィードバックを入力する。

振り返り表示画面ではチューターごとの各チュータリングの報告とフィードバック、チューティからの評価、過去のチュータリング回数が表示される。報告・フィードバックの確認画面では各報告に対するフィードバック実施状況が一覧で表示される。

表2に本システムで入力させる報告書の項目を示す。「振り返り」の項目では、「相談内容」の項目で

記述したチューティのニーズをどの程度解消できたかとその理由、「チュータリング内容」の項目で記述した理解度把握のために実施したこと、どのような教え方をしたかについて、なぜそう考えて実施したのか、その結果について振り返る。

#### 4.3 フィードバックとチューターのランク

チュータリングの報告書へのフィードバックは一定以上の経験や知識のあるチューターが担当することとする。そのため、チューターのランクを設けることとした。チューターのランクは初任期、中堅期、熟達期の傾向<sup>(2)</sup>をもとにチューターとしての継続年数、学習支援に関する知識、意識の面から評価し、1段階チューターから3段階チューターの3つのランクを設定した。

表3に設定したチューターのランクの一覧を示す。フィードバックを行うのは3段階チューターになる。1段階チューターへのフィードバックはチュータリング内容についてではなく、報告に記載すべき内容が適切に記載されているかが中心になる。2段階チューターからはチュータリング内容についてフィードバックが行われる。

#### 5. おわりに

本研究では、チュータリング活動の主体的な改善を促すことを目的としたチュータリングの振り返り支援システムを提案した。今後は提案システムを開発し、本学部の支援コーナーで本システムを利用してもらう予定である。また、システム利用前後のチューターの意識変化を調査し、振り返りがチュータリング活動においてもたらす効果を明確化する。

#### 参考文献

- (1) 椿本弥生, 大塚裕子, 高橋理沙, 美馬のゆり: “メタ学習ラボ: ピア・チュータリングの環境の開発と運用.”, 日本教育工学会第28回全国大会講演論文集, pp. 939-940. (2012)
- (2) 鈴木学: “学習支援に従事する学生の変容過程に関する研究.”, 福島大学総合教育研究センター紀要, Vol.23, pp.17-24 (2017)